

産官学連携・ 地域連携の ご案内

2025

Sojo University
Center for Community and Industry Collaboration



- P01 地域共創センターとは(役割・業務) 5つの役割・業務/産官学連携ポリシー/センター長あいさつ
- P02 地域連携の取り組み(産官学の連携協定)
- P03 産官学連携支援の取り組み事例
- P04 研究成果/研究業績データベース
- P05 研究活動について/外部資金について/共同受託研究等の手続きについて
- P06 外部資金獲得状況/「大学保有特許」について

地域共創センターとは

役割・業務

大学が創造する「知」、すなわち学術研究のシーズ*を地域社会へと還元し、地域とともに発展するために、地域共創センターは、地域と大学をつなぐ「地域連携」「研究活動」の窓口として、主に下記の業務を行っています。

*種の状態を意味し、ニーズに適合する「モノ」を生み出す可能性やノウハウなどを指す。

01

地域連携・
産官学連携事業の
推進に関すること

02

自治体、企業、
研究機関等と学内教員との
連携コーディネート

03

自治体、企業、
研究機関等との共同研究、
受託研究等外部資金に
関すること

04

知的財産の創出、
権利化、管理等に
関すること

05

ベンチャービジネスの
萌芽となるべき独創的な
研究開発と人材育成に
関すること

産学官連携ポリシー

大学の使命は、教育と研究さらにはそれらの成果に基づく社会連携です。崇城大学は、建学の精神の一項目の「本学は産学提携により『知の基地』として新実学を形成し、芸術を含め、地域社会における文化の府となり、世界の平和に寄与しなければならない」に基づき、教育研究の成果について、産業界・行政に広く提供することを通じて、社会の発展に寄与することを目標としています。この目標を達成するために、下記の「産学官連携ポリシー」を定めます。

1.

産学連携の推進

- 1) 地域社会の問題解決支援のため、地域と連携して大学の知的財産資源の活用に積極的に取り組みます。
- 2) 産業界・行政等からの受託研究・共同研究の受入を積極的に推進し、様々な社会的要請に寄与する研究活動を展開します。
- 3) 社会貢献型の研究を奨励します。
- 4) 研究者情報やシーズを積極的に発信し、社会需要とのマッチングを図り、地域課題解決支援を進めます。
- 5) 研究成果は、産業界・行政等の発展のため活用します。

2.

成果の教育への
還元と公開

- 1) 研究成果は、学生の教育に還元します。
- 2) 産業界や地域社会の持っている教育力を積極的に活用し、学生に実践的な知識・技能を身に付けさせ、地域に貢献できる人材を育成します。
- 3) 教育活動と産官学連携活動の一体化を目指します。
- 4) 研究成果は、学内外での発表会やセミナー等で積極的な情報発信に努めます。

3.

推進体制の整備

- 1) 産官学連携活動を積極的に推進するための大学の窓口となる「地域共創センター」を設置します。
- 2) 産学連携活動での成果については、適切に管理し、教職員の業績として、正当な評価を行います。
- 3) 諸規程及びポリシーを遵守するとともに、社会的な理解と賛同が得られる透明性の高い産官学連携活動を推進します。

センター長あいさつ

大学の使命は「教育」と「研究」、そして、これらの成果を基盤とする「社会貢献」にあります。崇城大学では、建学の精神に則り、地域社会における文化の拠点(「府」)となることを目指して、これまでさまざまな活動を積み重ねてきました。その一つが、平成23年に設立した「地域共創センター」の活動であり、地域社会と本学とをより強固につなげることを目的に、本学教員の地域貢献活動を組織的に支援・推進してまいりました。

本センターでは、地域課題の解決支援をはじめ、企業との共同研究、教育現場としての地域連携の活用、本学教員の研究シーズの発掘・発信、地域との連携強化、さらには研究資金の獲得支援や知的財産の保全など、多岐にわたる取り組みを行っています。これらを通じて、大学、地域社会、企業の皆様との有機的な連携を築くことを目指しています。

崇城大学が地域に根ざし、グローバルな視点を持ちながら持続的に発展し、社会に貢献し続けていくためにも、本センターでは、地域や企業の皆様からのご相談やご訪問を心より歓迎しております。そして、ここから多くの連携プロジェクトが生まれ、共に推進されていくことを願っております。

今後とも、皆様の温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



センター長・副学長(研究担当)

武谷 浩之

地域連携の取り組み

全学科に対応する専攻の大学院を擁する本学では、多岐にわたる分野において様々な学術研究のシーズがあり、それらを産（企業）・官（地方自治体など）のニーズと融合させ、地域社会への貢献を目指しています。

*2025.4月時点で、地方自治体(18)、金融機関(3)、医療機関(3)、企業団体等(22)、計46の連携協定を締結しています。

産官学連携協定

平田機工株式会社

締結日：2024年11月1日

「遺伝資源植物の研究開発に係る相互支援」および「インターンシップを含む人材育成」等の分野における協力を通じて、地域社会の持続的な発展に寄与することを目的とした連携協定を締結しました。本協定により、研究・教育の更なる充実と人材育成の推進、そして地域との連携強化が期待されます。

- 2025年1月 連携協定キックオフ講演会を実施
- 2025年3月 平田機工株式会社にて、産業用ロボット等の製造ラインや研究施設の見学会を実施



Bosai Tech株式会社

締結日：2024年9月11日

災害時の車中泊避難者等への支援のあり方について研究を進めるため、熊本市とともに連携協定を締結しました。この協定に基づき、車中泊避難者の実態把握、エコノミークラス症候群への対策、その他物資供給など様々な課題への対応を進めていきます。今後は、国が策定した「在宅・車中泊避難者等の支援の手引き」を分析し、熊本市の車中泊避難者支援のガイドラインの策定、車中泊避難の実証実験の共同開催、エコノミークラス症候群対策の強化、さらにはデジタルトランスフォーメーション(DX)による車中泊避難場所の管理などに対応するための研究を推進していく予定です。

- 2024年10月 「車中泊避難支援システム」特許取得(情報学部情報学科・亜原理有教授(当時准教授)とBosai Tech株式会社の共同出願)
- 2024年12月 熊本市動植物園の駐車場にて、熊本初の車中泊避難体験イベント実施
- 2024年12月 Bosai Tech株式会社が崇城大学発ベンチャーとして認定



阿蘇市

締結日：2024年5月22日

阿蘇市を中心とする阿蘇地域の地域イノベーション創発および地域におけるDX促進を目的とした包括連携協定を阿蘇市、道の駅阿蘇、SCBラボと締結しました。また、4団体を中心に30団体から構成される阿蘇市地域DX推進協議会を設立しました。本協定により、阿蘇市を中心とした地域資源の活用や持続可能なまちづくりの推進、DXによる地域課題の解決に向けた取り組みを加速してまいります。

- 2024年5月 阿蘇市地域DX推進協議会を設立
- 2025年4月 情報学部情報学科・星合隆成教授と松嶋和子阿蘇市長で阿蘇市地域DX推進協議会の運営に関して協議を実施



産官学連携支援の取り組み事例



それぞれの取り組みの詳細や最新の情報はホームページをご覧ください。

<https://www.sojo-kyoso.com/region/outcome.html>

産官学連携の取り組み



初・パリコレ出展

芸術学部デザイン学科 甲野 善一郎 教授

芸術学部デザイン学科・甲野善一郎教授および同学科3年生が、フランス・パリで開催された「パリファッションウィーク」期間中のファッションショー「マイスタイルイベント」に参加しました。このプロジェクトは、株式会社ラブリントンとの共同で進められ、伝統と革新を合わせた和装羽織の制作に取り組みました。現地のパリでは事前準備、撮影などを行い、国際的な舞台で日本文化の魅力を発信する貴重な経験となりました。



メタバース商店街の構築とバーチャル美術館の実施

工学部建築学科 古賀 元也 准教授 芸術学部美術学科 清島 浩徳 教授

工学部建築学科の古賀研究室、芸術学部美術学科の清島研究室、坂元旭非常勤講師、藤本 賢志氏、株式会社Vizersの連携によって、ユーザー同士が仮想空間で交流を図ることができる『メタバース商店街』を構築しました。対象地は熊本市中心市街地の上通商店街で、2024年度はこのメタバース商店街で、『上通バーチャル美術館』を開催しました。このイベントでは、メタバース商店街に、清島浩徳教授の彫刻作品や芸術学部の学生のデジタルアート作品を展示し、ユーザーはアバターを通じて商店街を自由に歩き回り、芸術作品を体験しました。



世界最軽量級（65g）充電器を製品化

情報学部情報学科 西嶋 仁浩 教授

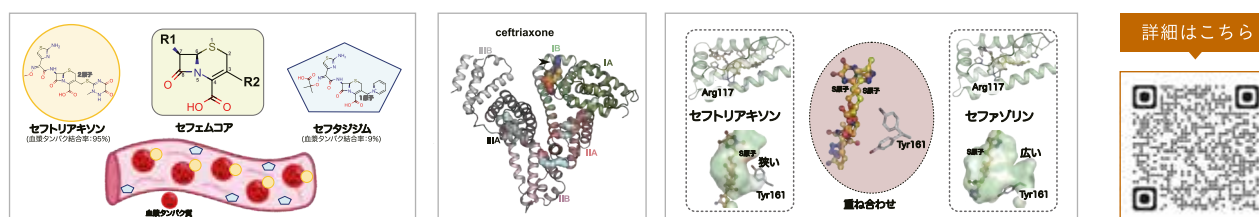
情報学部情報学科・西嶋仁浩教授が発明者となっている特許技術を活用した革新的な「世界最軽量級の充電器」が、販売を開始しました。この充電器はわずか重さ65g、体積46ccで、一般的なスマートフォン用のUSB充電器と同等のサイズでありながら6倍の電力（65W）を供給可能です。これ1台で、スマートフォンはもちろん、ノートパソコンやゲーム機など幅広いモバイル機器を充電できます。加えて、優れた電力効率と低発熱性能により、環境に優しいのも魅力です。

1

半世紀来の謎だったセファロスポリン系抗菌薬が薬によって多様な血漿タンパク結合率を示す理由を原子レベルで解明！

薬学部薬学科・山崎啓之教授と小田切優樹特任教授が、藤田医科大学 医学部・河合聡人 講師、土井洋平教授との共同研究において、実臨床でも使用頻度の高いセファロスポリン系抗菌薬セフトリアキソンおよびセファゾリンとヒト血漿アルブミン（HSA）との相互作用解析を実施し、似た構造を有するセファロスポリン系抗菌薬が薬によって異なる血漿タンパク結合率を示す要因を原子レベルで解明しました。

HSAと強く結合する薬剤は、他の薬との相互作用リスクがあるため、今後は併用薬による影響を評価し、より安全な感染症治療の確立を目指して研究を進めていきます。



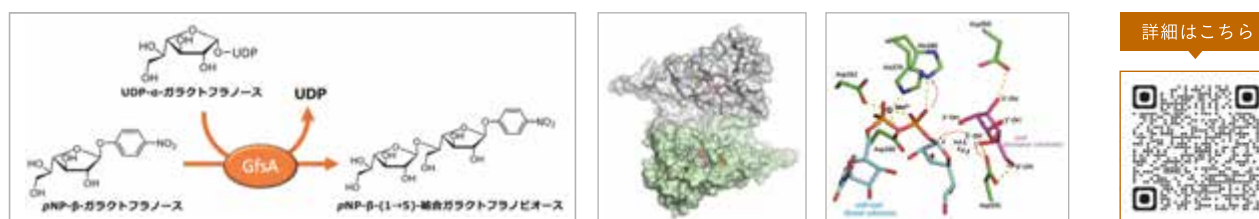
2

病原性真菌の細胞壁形成に重要なガラクトフラノース鎖を合成する酵素GfsAの立体構造を世界で初めて解明！

生物生命学部生物生命学科・岡拓二教授、平大輔教授、門岡千尋准教授（当時助教）が九州大学 大学院農学研究院・角田佳充教授、寺本岳大助教らのとの共同研究において、真菌の細胞壁に存在する希少な糖鎖「ガラクトフラノース鎖」の合成酵素である GfsA の立体構造を解明し、5位水酸基への特異的な糖転移反応のメカニズムを明らかにしました。

GfsAの結晶構造が解明されたことにより、コンピューター・シミュレーションを用いた阻害剤スクリーニングが可能となりました。これにより、GfsAを標的とする新規抗真菌薬の創出が、数年以内に実現されることが期待されます。

（本研究は、科学研究費助成事業、九州大学 大学改革活性化制度、公益財団法人発酵研究所一般研究助成事業の助成を受けて実施されました。）



研究業績データベース

本学教員の教育・研究活動や業績、特許に関する情報を公開しています。氏名・所属および研究分野などのキーワードから研究者情報を検索できます。

<http://rsrch.ofc.sojo-u.ac.jp/sjuhp/KgApp>

※本サイトの情報は研究者の任意の入力に基づいており、常に最新の情報を反映しているものではありません。

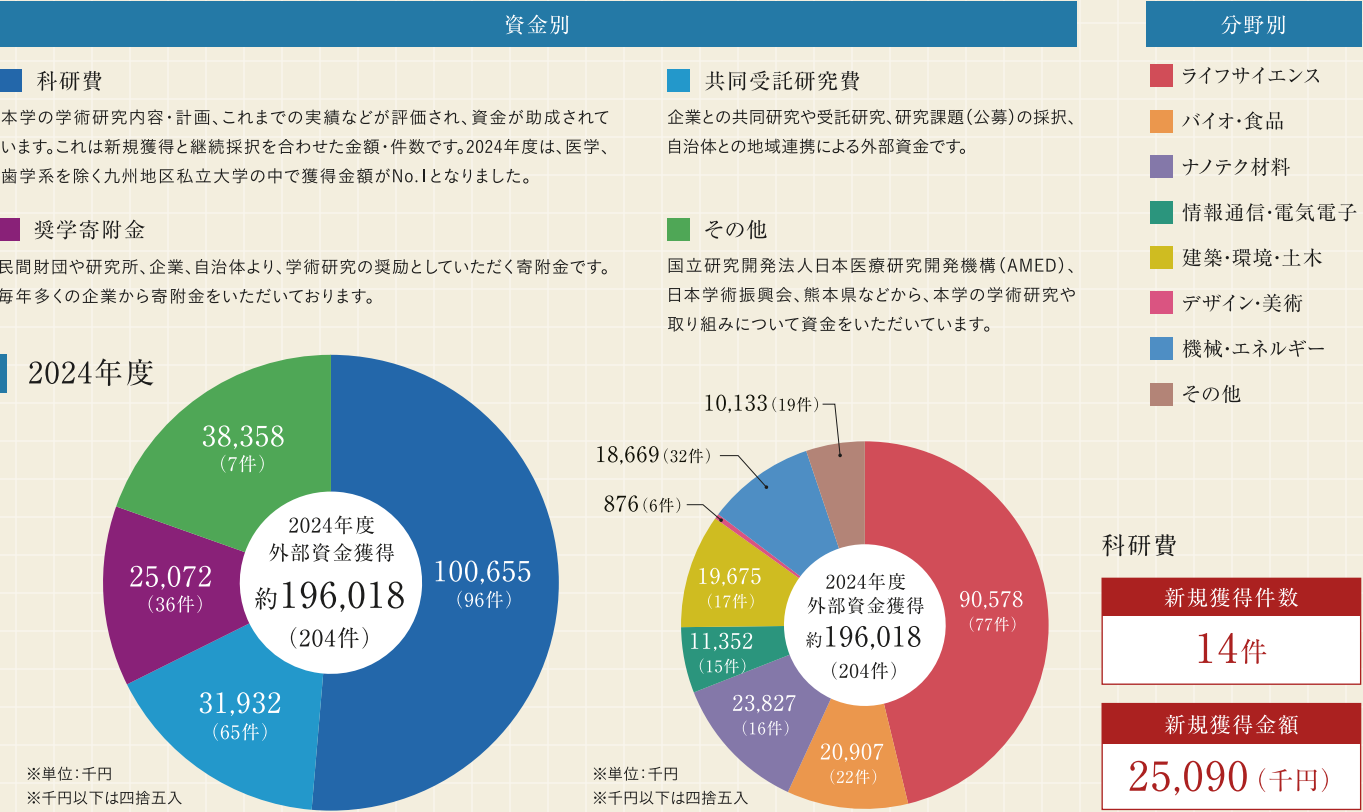


研究活動について

2024年度も本学の研究者がさまざまな賞に選ばれました。

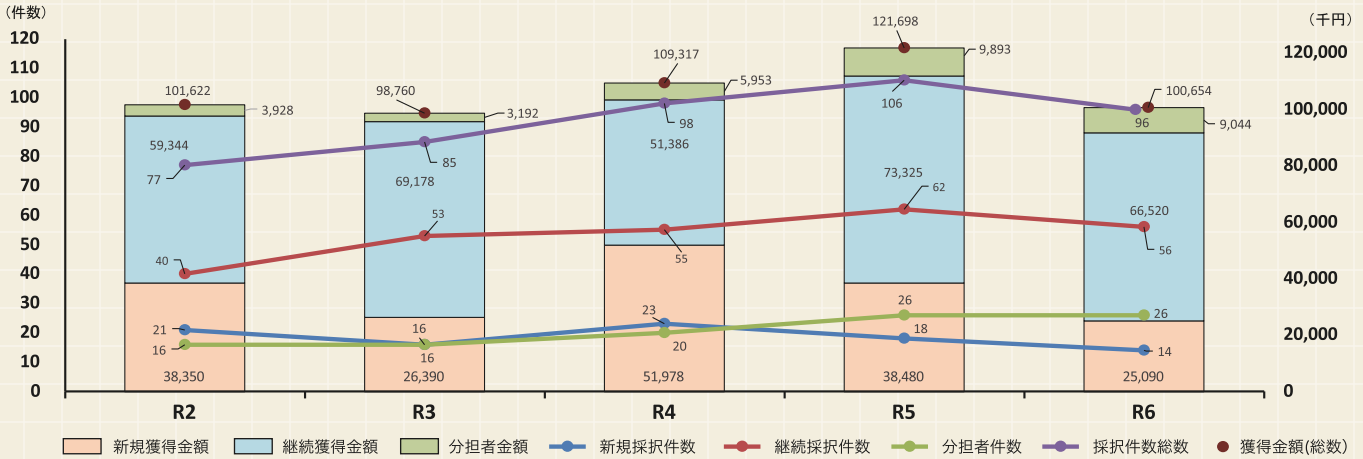
受賞				
学科	教員名	団体名	受賞名	受賞日
情報学科	亜原理 有 教授（当時准教授）	国際会議IEEE-ICEIB2024	「ベストペーパー賞」	2024/4/19
生物生命学科	石田 誠一 教授	日本毒性学会学術年会	「田邊賞」	2024/7/4
生物生命学科	平 大輔 教授	第9回熊本テックブラングランプリ	「優秀賞」	2024/7/20
美術学科	佐藤 和歌子 教授（当時准教授）	第11回日展 日本画部門	「会員賞」	2024/10/31
薬学科	首藤 恵子 講師	第41回日本薬学会九州山口支部大会	「学術奨励賞」	2024/11/23
生物生命学科	門岡 千尋 准教授（当時助教）	令和6年度日本農芸化学会西日本支部	「西日本支部奨励賞（一般）」	2025/2/2

外部資金について

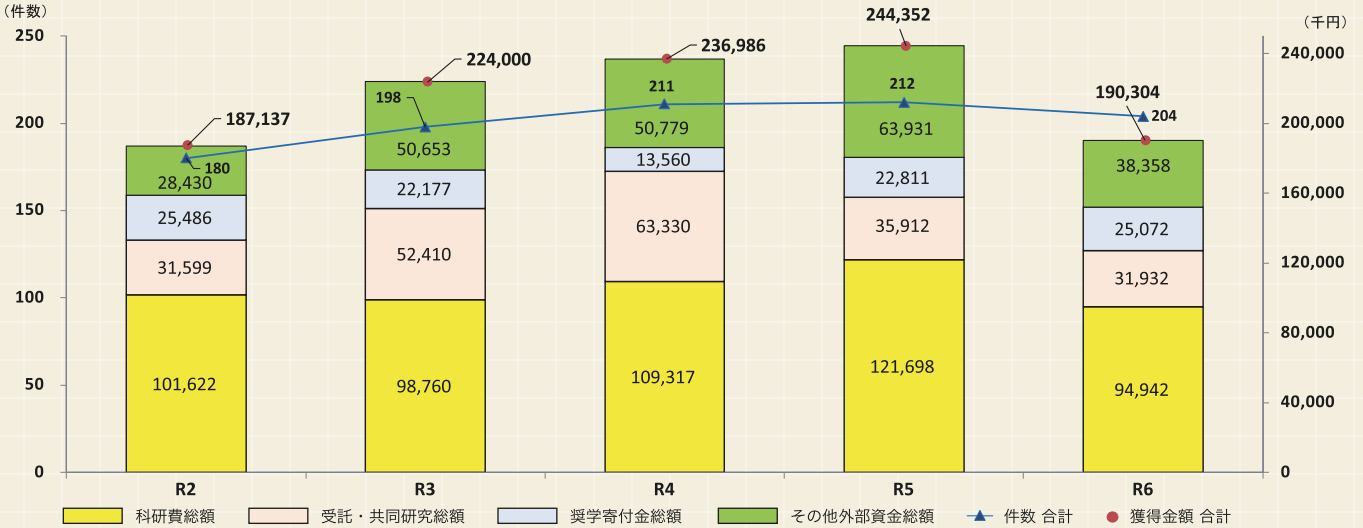


外部資金獲得状況（5か年）

科研費の推移



外部資金（科研費+受託研究+奨学寄附金+その他）の推移



「大学保有特許」について

特許出願状況(5か年)

(R7.3.31現在)

	R2	R3	R4	R5	R6
特許査定	3	2	2	5	5
保有特許数	19	19	18	18	21

令和6年度特許査定

学科	氏名	特許登録 No	件名	出願日	登録日
情報	亜原理 有	特許第7577269号／ 特願2024-105671	車中泊避難支援システム、車中泊避難支援方法、およびプログラム	R6.6.28	R6.10.25
情報	寺坂 健一郎	特許第7637366号／ 特願2024-158723	流体用フィルタ	R6.9.13	R7.2.19
情報	西嶋 仁浩	特許第7634833号／ 特願2021-053519	スイッチング電源装置	R3.3.26	R7.2.14
生物	宮坂 均	特許第7507427号／ 特願2020-029179 (優先権 特願2019-037875)	植物成長促進剤及びその製造方法	R2.2.25	R6.6.20
薬	安楽 誠	特許第7557705号／ 特願2020-042688	食直後血糖値上昇抑制組成物	R2.3.12	R6.9.19

「技術・研究」「人材」「情報」を“コラボ” SOJOコラボ会員募集

入会
無料



地方産業の復興、新産業の創出支援および促進を目指して本学の学術研究シーズに関心や期待、活用ニーズを持たれる企業や地方公共団体のみなさまへ、「SOJOコラボ」の会員登録をおすすめしています。

目的

地域社会の問題解決の支援および発展。本学の知的財産資源や教育研究の成果を、産業界や行政に広く提供することで、社会の発展に寄与してまいります。なお、産官学連携ポリシーについてはPIをご覧ください。

メリット ご入会(登録)*いただくと、このような「技術・研究交流」「人材交流」「情報交換」のご案内をいたします。

- 「技術交流会」の開催 ● 「大学見学会」の開催 ● 異業種分野および大学教育に関する「情報・意見交換会」の開催
- コーディネーターによる無料技術相談 ● 本学主催「ビジネスプランコンテスト」のご案内
- 広報誌『岳風』の発送 ● メールマガジンによる本学の研究・イベント等の情報発信

*入会(登録)にあたり、いただいた全ての情報は本学で厳重に管理し、第三者に開示かつ提供することはありません。また、入会(登録)による会費はございません。

交通アクセス



JR熊本駅から		
JR 鹿児島本線	熊本駅	約5分 片道240円 崇城大学前駅
JR上熊本駅から		
JR 鹿児島本線	上熊本駅	約2分 片道200円 崇城大学前駅
バス 九州産交バス	上熊本駅前	約3分 片道180円 崇城大学前
熊本桜町バスターミナルから		
バス 九州産交バス	熊本桜町バスターミナル	約13分 片道270円 崇城大学前
通町筋から		
市電 通町筋	約20分 片道200円	上熊本駅前 →
→ JR 鹿児島本線	上熊本駅	約2分 片道200円 崇城大学前駅
市電 通町筋	約20分 片道200円	上熊本駅前 →
→ バス 九州産交バス	上熊本駅前	約3分 片道180円 崇城大学前
阿蘇くまもと空港から		
バス 空港リムジンバス	阿蘇くまもと空港	約50分 片道1,000円 熊本桜町バスターミナル →
→ バス 九州産交バス	熊本桜町バスターミナル	約13分 片道270円 崇城大学前
バス 空港リムジンバス	阿蘇くまもと空港	約60分 片道1,000円 熊本駅 →
→ JR 鹿児島本線	熊本駅	約5分 片道240円 崇城大学前駅

※バスで芸術学部・薬学部へ向かう方は「釜尾」下車が便利です。※記載情報は2025年6月現在の情報です。

崇城大学 地域共創センター

Center for Community and Industry Collaboration

ADDRESS 〒860-0082 熊本県熊本市西区池田4丁目22番1号 情報学部棟1階

TEL/FAX 096-326-3418

E-MAIL ken-sien@ofc.sojo-u.ac.jp

地域共創センター
ホームページ

研究業績
データベース



- 地域共創センターHP <http://www.sojo-kyoso.com>
- 研究業績データベース <http://rsrch.ofc.sojo-u.ac.jp/sjuhp/KgApp>

ホームページには、産官学連携・地域連携の成果など最新情報を掲載しています。また、申込書など各種様式もダウンロードできます。